



熊本発 先端研究

KUMADAI マグネシウム合金の量産、実用化に向けた製造基盤技術の研究が進んでいる (長洲町の不二ライトメタル)

「大学力」とR&D挑戦に可能性
実用化待たれる世界基準の「KUMADAI マグネシウム合金」



▶ヒトのiPS細胞から腎臓組織の一部を世界で初めて作り出すことに成功し会見する、熊本大学発生理学研究所大学院生の太口淳博さん(左)と西中村隆一教授(12月10日、熊本大学)。高い研究水準にある熊本大学医学部の存在は、有形無形の貢献を熊本にもたらしている



◀「航空宇宙参入セミナー」で専門家の話を聞く県工業連会員。最も高い品質基準が要求される航空宇宙分野への参入ハードルは高いが、意欲を見せる地場製造業が出てきている(12月2日、県民交流館ハリアアで)



▶7月13日、韓国大邱市職員や企業人などが来熊し熊本県工業連合会との間で開かれた「日韓ビジネスセミナー」。県工業連の足立國功会長は、「韓国の中小企業は日本の中小企業の技術やノウハウに関心が高い。日韓コラボでアセアン市場開拓を探りたい」と意欲を見せる

熊本大学発生理学研究所の大学院生太口淳博さん(31歳)と西中村隆一教授(50歳)らの研究グループは、このほどヒトの人工多機能幹細胞(iPS細胞)から腎臓組織を作り出すことに世界で初めて成功した。会見で教える子は、腎臓組織再生の瞬間を「若者言葉なら『マジで』って感じですよ」と。この20年間で一番感激的な瞬間。教え子が達成してくれて感無量」と恩師。腎臓再生を研究する西中村教授の存在が、東京から若き研究者を熊本に呼び寄せた。腎臓再生には今後の研究が待たれるが、全国で31万人といわれる透析患者に熊本発の技術が光を点した。

熊本では大学院自然科学研究科の河村能人教授が開発した「KUMADAI マグネシウム(Mg)合金」が、その強度と難燃性で航空宇宙分野の新素材として注目を集めている。同Mg合金の量産、実用化に向けた製造基盤技術の研究も長洲町の不二ライトメタルで進んでおり、熊本発の新技術は地域の新産業創出の期待もかかる。

県工業連台会の足立國功会長は、「地場製造業が生き残るにはR&D(研究・開発)分野参入が必要。会員の中には大学院生の採用を検討する会社も現れるなど気運が出てきた」と生産工程の「上流志向」を応援する。半導体関連の進出企業とメッキ分野の会員企業の共同研究も進んでおり、「進出企業と地場企業が『総力戦』でグローバル化に対応する」と足立会長。

大学の頭脳が優れた人材を熊本に引き寄せ、大学や進出企業と地場産業の研究開発志向が結びつく時、熊本に新たな産業創出、新事業開拓の可能性が生まれる。